

AFICAT ニュースレター(日本第 14 号)

2024 年 1 月 10 日発行

第 14 号では AFICAT 対象 5 カ国のうち、タンザニアとナイジェリアで 2023 年 6 月から 11 月までに実施した活動をご紹介します。タンザニアについては展示会情報、AFICAT ショールームの設置、各本邦企業のパイロット活動の進捗状況を記載しました。ナイジェリアについては本邦企業各社やササカワ・アフリカ財団の現地活動、マイクロファイナンスを利用する農民組合の訪問に関して記載しました。

タンザニア:国際見本市の視察

第 47 回 Dar es Salaam International Trade Fair(通称サバサバ¹⁾)が、2023 年 6 月 28 日から 7 月 13 日の期間、Dar es Salaam で開催されました。会場では農業資機材メーカーや現地代理店、観光、飲食などに関する様々な企業や組織、政府機関が出展し、様々な製品や活動が紹介されていました。農業機械関連ではトラクター、コンバイン、耕うん機、精米関連の機械などが展示されていました。AFICAT では農業機械を展示しているブースを訪問し、どのような製品が紹介されているか調べました。以下が今回ブース出展していた主な代理店と一部の製品情報です。AFICAT はここで得た情報をもとに、本邦製品の取引先候補の発掘などに取り組みます。

【ブース出展情報】

①Poly Machinery Co., Ltd.

取扱商品: 籾摺り精米機、中国製農業機械(播種機、脱穀機など)、中国農機の部品類各種



商品名/型式名: 籾摺り精米機/TSMJ-20

作業能率: 1,200kg/h

販売価格: TZS 56,000,000

備考: 据付料金込、輸送費別

②METL Agro Tractors and Implements Ltd.

取扱商品: トラクター(Massey Ferguson、TAFE)、ディスクプラウなどの作業機類



商品名/型式名: TAFE トラクター/TAFE7502

馬力/駆動: 75HP/4W

販売価格: TZS 65,000,000

備考: ギアボックスなどの部分に限り 1 年保証

③Kanu Equipment Agriculture Ltd.

取扱商品: トラクター(CASE)、コンバイン(CASE)、ディスクプラウなどの作業機類



商品名/型式名: CASE トラクター/JXT75T

馬力/駆動: 75HP/2W

販売価格: TZS 54,000,000

備考: 1 年保証

¹ スワヒリ語で 7 は「サバ」という。タンザニア独立運動を担ったタンガニーカ・アフリカ民族同盟創設を祝う 7 月 7 日を中心に毎年「国際見本市」が開催されるため、現地では

サバサバと呼ばれる。



④SUMA JKT

取扱商品:トラクター(New Holland)、ディスクプラウなどの作業機類



商品名/型式名:New Hollandトラクター/TT75
馬力/駆動:75PS/4W
販売価格:TZS 56,800,000

⑤Agricom Africa Limited

取扱商品:トラクター(Kubota、Swaraj)、コンバイン(Kubota)、耕うん機(Kubota)、ディスクプラウなどの作業機類



商品名/型式名:Kubotaトラクター/EK4-751PRO
馬力/駆動:75HP/4W
販売価格:TZS 53,000,000

⑥ Tanzania China Trade & Tourism Development Ltd.

取扱商品:トラクター(中国製)、ディスクプラウなどの作業機類



商品名/型式名:中国製トラクター/MD704

馬力/駆動:70HP/4W

販売価格:TZS 48,000,000

備考:フロントアクスル車軸オイルシールタイプ

⑦Afritool

耕うん機、刈払い機、エンジンポンプ、背負い式動噴(HONDA)、汎用エンジン、発電機、芝刈り機など



商品名/型式名:車軸式耕うん機/FQ650(写真内緑丸)

馬力/駆動:6PS/車軸耕うんタイプ

販売価格:TZS 2,400,000

備考:イエロー培土器などの各アタッチメントに対応

タンザニア:ナネナネ(農業祭)への参加

8月1日から8日まで、タンザニア国内8カ所で開催された農業祭(通称ナネナネ)で、AFICATは昨年引き続き Arusha 会場で農業省ブースの一角を借りて出展し、昨年同様に本邦企業の製品展示、実演、製品紹介動画の上映、冊子・チラシなどの配布・掲示などを通じて、本邦企業や製品、AFICATを紹介しました。来場者からは、昨年同様に「紹介されている製品はどこで買えるのか、値段はいくらなのか」、「いつ頃タンザニアで販売する予定なのか」、「日本製品は、価格は高いが信頼できる」という声が寄せられました。今回は昨年の経験を生かし、各企業からの協力をいただき実機展示を増やしました。その結果、来訪者名簿に記載いただいた方だけで550名以上と盛況で、スタッフは休む暇がないほどでした。



Arusha 会場 AFICAT ブースの様子①



Arusha 会場 AFICAT ブースの様子②



Arusha 会場 AFICAT ブースの様子③

今年、タンザニア政府の農業研究機関であるタンザニア農業研究所 (Tanzania Agricultural Research Institute: TARI) で農業機械化を担当する Uyole 支部から、新しい技術を紹介したい、AFICAT と連携したい、と連絡をいただきました。そのため、TARI Uyole と協力し、Mbeya 会場でも AFICAT や本邦製品を紹介させていただくことができました。



Mbeya 会場の TARI ブースで AFICAT を紹介する TARI スタッフ

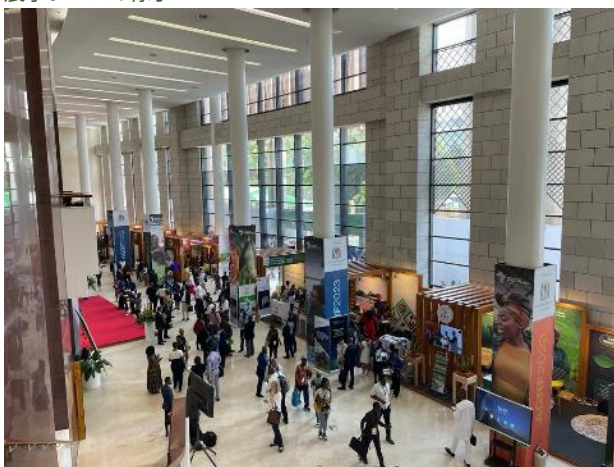
現地での本邦企業や製品の認知度はまだまだ低く、このような活動を継続して、本邦企業の認知度向上や新しい技術、情報などを現地の方々へ提供してタンザニアの農業発展に貢献できればと考えています。

タンザニア: Africa Food System Forum 2023 で AFICAT ブースを設置

9月5日から8日まで、Dar es Salaam で Africa Food System Forum 2023 が開催されました。Africa Food System Forum (旧 African Green Revolution Forum) は 2010 年以來、アフリカや欧米各国の政府首脳や大臣、多国籍企業や現地企業のトップといったビジネス・リーダー、ドナー、NGO、オピニオン・リーダー、農民、青少年、その他の関係者が一堂に会し、アフリカの開発や経済成長に関するアジェンダを協議するため、毎年アフリカの様々な地域で開催されてきました。今年の世界 90 力国から、5,400 人以上の代表団が参加したと公式ウェブサイトで発表されています。AFICAT は JICA タンザニア事務所および CARD 事務局と共同でブースを設置し、本邦企業の製品や技術を紹介しました。来訪者の多くは政府関係者や企業、大規模農家、国際 NGO 等で、日本の製品や技術に高い関心を示していました。実際に購入したい、商談したい、代理店候補になりたいという声も複数聞かれ、本邦企業を紹介した事例もありました。AFICAT は今後も、本邦企業がアフリカ各国へ進出する際の足掛かりとなるような活動に取り組んでまいります。



展示ブースの様子



セミナー会場のある建物内の様子

タンザニア:KATC ショールームオープン

本邦向けニュースレター第 11 号でお知らせしていたキリマンジャロ農業研修センター(以下 KATC)施設内の改修工事が 7 月上旬に終了し 9 月末に AFICAT ショールームがオープンしました。現在 16 の本邦企業が参加しています。ショールームには、本邦企業から提供いただいた、カタログ、チラシ、製品サンプル、各企業の AFICAT パイロット活動の様子がわかる写真などを展示し、企業の PR 動画を上映しています。



AFICAT ショールーム外観(写真内赤枠)

ショールームには、在タンザニア日本大使館にご支援いただき、(有)角野製作所さまから提供いただいた超小型水力発電装置「ピコピカ 10」も展示してあります。「ピコピカ 10」は、外務省「日本ブランド発信事業」の一環で、タンザニアで紹介された製品です。水力で発電するもので、環境教育に用いられているということです。



角野製作所さまから提供いただいた「ピコピカ 10」

KATC は政府の研修機関なので、普段は一般の方の来訪は少ないですが、研修業務を実施していること、JICA のコメに関する技術協力プロジェクトの事務所があることもあり、9 月末のオープン以来、タンザニア政府や JICA、KATC の学生、BBT プログラム(ニュースレター第 12 号で紹介)に参加している就農予定の若者、JICA 研修に参加するアフリカ 10 カ国の政府職員、本邦企業など多くの方が来訪しました。AFICAT では引き続き、このショールームの参加企業を募集中ですので、ご興味がある方は本誌編集後記にある問合せアドレスまでご連絡ください。



コメの JICA 技術協力プロジェクト(TANRICE3)の会議に出席した農業省本省や各農業学校関係者が見学した様子(2023 年 10 月 3 日)



学生達へ本邦企業の説明、展示
製品の実演を行う KATC 職員(2023 年 10 月 26 日)



オルガミンをイネに散布する様子



JICA 研修で KATC を訪問した東西アフリカ各国の政府職員(10 カ国 13 名)が見学する様子(2023 年 11 月 27 日)



メイズの根の伸張比較(左側がオルガミン散布区)



KATC を視察された住友商事さま(2023 年 12 月 5 日)

タンザニア：(株)パルサー・インターナショナル さま オルガミン収穫調査@KATC

第 13 号でお伝えした通り、AFICAT では(株)パルサー・インターナショナルさまから葉面散布肥料「オルガミン」を提供いただき、実証試験を行っています。

タンザニアでは KATC の圃場でメイズとイネを対象に生育途上に散布し、収量比較を実施しました。それぞれ非散布区と比較し、高い収量が得られたほか、メイズは根の伸張が大きいことを KATC 職員と一緒に確認しました。散布時の様子や収量比較の結果は、前述の KATC ショールームにも展示しています。

タンザニア：国土防災技術(株)さま フジミン収穫調査@KATC

第 13 号でお伝えした通り、AFICAT では国土防災技術(株)さまから、土壌の環境を改善して植物のミネラル吸収を促進する役目を担うフルボ酸を高純度に含有した植物活性剤『フジミン』を提供いただき、実証試験を行いました。第 13 号にてご紹介したスイカのほか、メイズやトマトの収量調査を行い、メイズはフジミン散布区により多くの収穫量があり、その効果を確認しました。



スイカの収量比較(右側がフジミン散布区)



AFICAT では農業機械のみならず、このような農業資材メーカーさまの製品実証や、タンザニアでの肥料などの資材登録手順の確認など、本邦企業要望に応じてアフリカ進出をサポートしています。



メイズの収穫の様子

タンザニア:松山(株)さま ドライブハローのモニタリング

2023年6月から8月の間、KATCは松山(株)さま(以下、松山)のドライブハロー(代掻き用作業機)を利用して代掻き作業を行いました。AFICATはKATCと協力し、水田における耕うん整地作業の工程や作業時間、面積、現地圃場との適合性などを確認し、松山へ報告しました。KATC周辺の水田圃場では作業請負業者などが70~75馬力のトラクターでロータリーを用いて代掻き作業を行っていますが、今回はドライブハローの適応馬力帯である58馬力のトラクターで作業しました。

KATC近郊の水稲地で使われるロータリーに比べ、提供頂いたドライブハローは作業幅が広く代掻き作業を効率的に行うことができます。ただし現地では代掻き前に耕うんをせずに、水をいれていきなり代掻きしたり(うない掻き作業)、稲株が長いままであったり、土壌が十分に水分を吸収していない固い圃場であったりと日本と作業条件が大きく異なります。今回の活動では松山の担当者から様々なアドバイスを受けながら、KATCと協力して、現地の圃場で活動し、現地に日本人がいない状態でも上記の作業記録、調査を継続していきます。



ドライブハローで代掻きを行う KATC 職員



ロータリーで代掻きを行う作業請負業者

タンザニア:住友商事(株)さま Tierra 社製 テレマティクス・デバイス

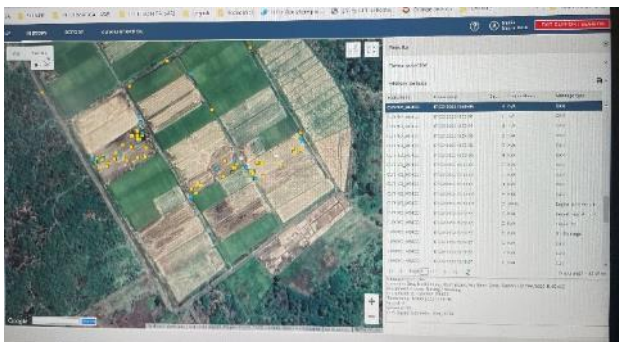
中東住友商事会社さまのご紹介で Tierra さまのテレマティクス・デバイスを、タンザニアでも AFICAT が支援することになりました。今回デバイスを取り付けたのは KATC のトラクター1台、KATC 周辺の農家が所有するトラクター1台です。このデバイスでは、機械の現在位置、作業履歴、エンジン稼働時間、電子装置類の不具合、指定範囲外に機械が出た際の警告など多くの情報が収集できるほか、ユーザーのニーズに合わせた取得情報のカスタマイズもでき、管理、閲覧は PC とスマートフォンで行えます。



取り付け作業後、KATC 職員、農家を対象に研修を行い、今現在もトラクター作業のモニタリングを継続しています。このようなデバイスは機械を所有、管理するオーナー側へのメリットが多いと思われませんが、Tierra のスタッフからは、オペレーターが機械を効率よく動かし、適切な作業かどうか確認できるため、オーナーだけでなく、オペレーター側にもメリットがあることを説明していただきました。



トラクターへの取り付け、研修の様子



管理画面で圃場での作業履歴を確認することができる

タンザニア:本田技研工業(株)さま 小規模農家向けビジネスモデル実証

第 13 号で紹介した本田技研工業(株)さま(以下、Honda)のビジネスモデル実証が終了しました。今回の実証では刈払機、背負動力噴霧機の利用頻度が高く、作業請負の売上も高い結果が得られました。貸与期間は 2023 年 5 月から 11 月末までの 7 カ月間で、機械の故障などありませんでした。

AFICAT はこの活動で得た情報を Honda へ報告し、小規模農家の機械化推進及び、Honda のビジネス拡大に貢献できるように今後も継続して支援していく予定です。



背負動力噴霧機 WJR2525T1 を利用する様子



刈払機 UMK450T を利用する様子

ナイジェリア:本田技研工業(株)さま 農業関連団体との連携推進

Honda Manufacturing Nigeria Ltd.さま(以下 HMN)は、ナイジェリア南部の Ogun 州 Ota 市に事務所/工場があります。Ota 市は、ナイジェリア経済の中心である Lagos 州都 Ikeja の国際空港から車で 1 時間強の所に位置しています。AFICAT 調査チームは 10 月 31 日、これまでパイロット活動に協力をいただいていた HMN を訪問しました。

訪問の際には、販売、スペアパーツ、カスタマーサービスを担当するマネジャーなど 4 名と、Nasarawa 州 Agriculture Development Program(ADP)への耕うん機(FQ650)の貸与と技術普及活動、Kwara 州にある国立農業機械化センター(NCAM)での機械認証試験、マイクロファイナンス機関との融資協力の可能性など、多岐に渡る活動について意見交換しました。それぞれの活動の課題のほか、外部の様々な機関との協業を進める上での難しさがあることを、直接面談することで、理解することができました。



HMN の展示スペース

HMN には、事務所棟のほかにも、組立工場、社員食堂、製品展示スペースなどが整備されています。ナイジェリア国内に拠点を持ち、スペアパーツやアフターサービスの提供ができるのは大きな利点であり、AFICAT を通じて農業バリューチェーン関連のドナー事業などに Honda 製品を紹介する際にも強みとなります。最後に展示スペースに置かれた製品類を拝見し、まさに Honda といえばバイク！と思わせる複数モデルのほかに、農業生産で使われる耕うん機、刈払い機、発電機、ポンプなどや販売価格の説明をいただきました。上述のマイクロファイナンス機関からも、一度 Ota を訪ねて Honda の小型農業機械を実際に見て、製品への理解を深めたいとの要望が出ています。



HMN の皆さま、見学させていただき、ありがとうございました！

ナイジェリア:NCAM による HONDA 耕うん機の性能試験の実施支援

ニュースレター第 13 号でご紹介した国立農業機械化センター (National Center for Agricultural Mechanization:以下、NCAM)における Honda 製耕うん機の性能試験の実施計画が進んでいます。NCAM はナイジェリアで利用される農機の性能認証試験を担っており、その認証があれば、ナイジェリア国内の公共調達の対象製品となるという利点があります。AFICAT チームは、NCAM に性能試験の手続きについて確認し、情報整理を行い、Honda と共に手続きを支援してきました。10 月 27 日に NCAM を訪問

し、手続き上の懸念点だった試験費用、及び性能試験後の農機の取り扱いを確認し、その情報を Honda と共有しました。今後は試験実施についてマネジメントレベルで再検討・判断をする方針ということです。

ナイジェリア:マイクロファイナンス機関との取引農民組合を訪問

AFICAT 調査チームは今年 6 月、Lagos を中心に複数のマイクロファイナンス機関と面談を行い、農家が農業機械を購入する際の融資サービスについて調査しました。そのうちの一つである Daylight Microfinance Bank は、Lagos から車で 1 時間程度の Ojodu という町に支店を持ち、Lagos 州、Ogun 州、Oyo 州の顧客をカバーしています。融資先は、主に農民が組織化された組合 (経営母体) を対象としているため、加盟している組合員数の大きな組合が融資を得やすいことが利点と考えられました。特に、Honda の小型耕うん機のデモンストレーションなど、より多くの小規模農家へアプローチする際に協力いただける可能性があります。

そこで、Daylight Microfinance Bank へ再度面談するとともに、取引実績のある大規模な農民組合を紹介いただくよう依頼しました。その結果、Oyo 州の州都で、ナイジェリアで人口第 3 位の都市 Ibadan にある All Farmers Association (AFAN) Oyo 州支部を 11 月 3 日に訪問できました。Ibadan へは、都市間高速道路を使って Lagos から 2 時間強でたどり着けます。面談会場には Daylight Microfinance Bank の 2 名に案内していただき、7 名の AFAN 代表と、HMN から 2 名が製品説明のためにお越しくださいました。



Daylight Microfinance Bank の皆さまと事務所前で撮影

面談では、AFICAT の概要を説明し、AFAN の代表からは、森林の残る土地での開墾に用いるショベルカー等の建設機材や草刈り機、ぬかるんだ土地でも作業できるトラクターと作業機、コメの収穫後処理などの現地ニーズのほか、AFICAT のデモンストレーション



機能への関心が示されました。AFAN は登録農家が 2 万人おり、Daylight Microfinance Bank の金融支援を得て、独自にトラクターをパキスタンから調達しているそうです。全会員が農業機械を利用できるように、ビジネスベースで取り組んでおり、Honda の小型耕うん機、刈払い機、ポンプにも関心を示していました。製品サービスの説明だけでなく、マイクロファイナンス機関も同席したことで、金融支援と組み合わせた製品の販売につながっていくことが期待されます。



AFAN がパキスタンから輸入したトラクター

ナイジェリア: Nasarawa 州大学関係者への ケット製品紹介活動

6 月 14 日、ナイジェリア連邦農業食料安全保障省 (FMAFS) アグリビジネス・マーケティング局 (ABM) とナイジェリア精米業者連盟 (RIMAN) の協力を得て、ケットさまが水分計や白度計などの製品紹介セミナーをオンラインで開催しました。FMAFS とは、旧連邦農業農村開発省 (FMARD) が 2023 年 5 月に新政権下で改称されたものです。ABM は AFICAT のフォーカルポイントとなっており、製品紹介セミナーに参加できなかった大規模な精米所や農業大学等のラボへの製品紹介も行うことにしました。このセミナーにおいて、湿度の異なる地域の間で輸送・保存される粉の水分平衡と水分管理、そしてナイジェリア人が好むコメの色や光沢と精米白度の測定結果との関係について再認識がなされ、精密分析による品質管理の向上が必要だと考えられたからです。

特に大学に対しては、43 校に個別に連絡を取り、そのうち 5 校が関心を示しました。そこで 10 月 25 日、ABM スタッフ 2 名と、同じく AFICAT フォーカルポイントとなっている連邦農業局 (FDA) の 1 名が、首都 Abuja に近い Nasarawa 州の Keffi にある州立大学農畜産学部と、州都 Lafia にある連邦工科大学ラフィア校農学部の 2 校を訪問しました。

ケット社のリーフレットを見せながら製品の紹介を行



ったところ、いずれの大学も、FMAFS から発出予定の商品紹介レター (価格表付き) を受領次第、購入を検討するという反応がありました。特に、連邦工科大学ラフィア校は、副学長が農学専攻のため農業に理解があり、新規の技術・機材導入に関心があるそうです。この商品紹介レターを副学長あてに直接送れば、さらにより反応があるのではないかと助言も得ました。ただ、対応した職員が機材調達の担当者ではないため、ディーラー候補の情報までは得られなかったため、これが今後の課題です。

ナイジェリア: ササカワ・アフリカ財団さまによる 事業でのトロムソさま機材の活用

ササカワ・アフリカ財団さま (以下、SAA) は、日本大使館による日本 NGO 連携無償資金協力を活用し、ナイジェリア北中部 Nasarawa 州内の 2 カ所で、コメのバリューチェーン強化を目的とした小規模農家支援事業を実施しています。農家の手に届く範囲でより良い機材を導入し、その効果を実証します。精米機は韓国製を導入し、石抜き機や色彩選別機のほか、トロムソさま (本社: 広島) の製品である固形燃料製造機 (グラインドミル) を導入し、コメの籾殻をすりつぶした固形燃料を製造し、コメの収穫後パーボイル加工 (蒸煮処理) に使う予定です。農家は、トロムソの籾殻固形燃料製造機を木炭の代替として使用し、改良窯 (見た目はドラム缶のようなもの) を用いて、パーボイル加工処理を行います。

10 月 24 日、AFICAT 調査チームは、この事業サイトの 1 カ所を視察しました。SAA は、地域のコメなどの集荷市場の一角に敷地を確保し、コメの貯蔵庫兼研修施設と、精米所を建設中です。研修スペースには、オフィスとトイレも併設されます。倉庫は 35 m² 程でそれほど広くなく、長期間の大量保管というより、市場を見ながら精米して販売するための一時的な籾貯蔵庫という位置づけのようでした。

この事業サイトの近くには、Nasarawa 州と隣接する Plateau 州との州境になっている川があり、ナイジェリアの主要河川の一つである Benue 川へと流れています。雨期の増水時、川沿いに氾濫原が広がり、稲作や園芸栽培が盛んな地域です。河川護岸や灌漑が整備されれば、農産物生産ポテンシャルの高い農地になるだろうと、SAA スタッフは話していました。



事業サイト近くを流れる川。灌漑は未開発。

SAA は北部 Kano にナイジェリア事務所を構えています。この地は稲作の中心地とも言われ、Lagos に次ぐ第 2 の人口を持つ大きな町です。このほど 11 月 7 日に首都 Abuja にも事務所が開設され、日本大使館、JICA のほか、ナイジェリアでの事業を計画する日本企業との窓口としての機能も期待されます。



新たに開設された SAA の Abuja 事務所



SAA 北中理事長、ナイジェリア事務所スタッフと

ナイジェリア:(株)SPEC さまの事業

(株)SPEC さまは、ナイジェリアで土壌硬化剤 STEIN (シュタイン)を製造販売しています。STEIN は環境への負荷が低い土壌硬化剤で、[JICA の支援を受けてカンボジアで実施した調査](#)では、現地の道路と比べて舗装道路のコストは約 1/3 にも関わらず、耐久性は従来型の道路と比べ 10 倍以上という結果になったということです。世界 14 カ国、日本国内の全都道府県に 1,500 力所以上で施工実績があり、今後は開発途上の



各国、特に著しい経済成長・人口増加が見込まれるアフリカへの展開をめざしています。

ナイジェリア進出へのきっかけは、2019 年に日本で開催された TICAD7 でした。TICAD7 に出展していた SPEC を知ったナイジェリア人のおかげで、2022 年 7 月に SPEC がナイジェリアを訪問し、現地政府機関らと STEIN 利用にかかる協議をしたということです。人口増加が著しいナイジェリアでは、道路の舗装率は未だ低く、道路整備が大きな課題となっています。

その後、ナイジェリア南部にある Edo 州の州政府から 200m の道路試験施行を受注し、2023 年 6 月に現地エンジニアと協力し施工を完了させました。今後、更なる延長、事業受注に向けて現地パートナーと事業を進めるといことです。



Edo 州での工事

施行終了後の道路

ナイジェリア:AFICAT ラップアップセミナー

2023 年 10 月から 11 月の現地活動で、本調査のナイジェリアでの現地活動が終了となりました。最後の渡航時には、連邦政府機関、精米所協会代表、粉ディーラー協会、州政府機関、民間企業など、AFICAT でお世話になった方々に参加いただき、ラップアップセミナーを開催しました。セミナーでは FMAFS の ABM 局長から開会の挨拶をいただき、AFICAT 調査チームから AFICAT の活動実績を共有し、AFICAT の今後の実施体制を提案させていただきました。参加者の多くから様々な助言をいただくことができました。

AFICAT は今後、これまでのような政府機関に加え、商工会議所といった民間セクターも AFICAT の運営に関与することを提案させていただき、皆さまから賛同をいただきました。最後に FMAFS の連邦農業局 (FDA)の副局長から閉会の挨拶をいただきました。FMAFS の機械化に向けた取り組み、それに寄与する AFICAT、Honda のデモンストレーションに参加し製品の良さが分かったことなどを共有いただきました。



AFICAT調査チームから活動報告



参加した皆さまと記念撮影

編集後記

昨年も多くの関係者の皆様に支えられながらAFICAT 活動を行うことができました。この場を借りて皆様へ御礼申し上げます。残り僅かのプロジェクト活動期間も頑張ってお手伝いさせていただきます。今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

編集・問い合わせ

(株)かいはつマネジメント・コンサルティング

魚住・竹田・梶房・徳岡・池ヶ谷

Tel: 03-5791-5083 Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp

AFICAT HP:

<https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。